大和名所記

第十七 宇太郡
第十八 城下郡

2906
572

ル 4
4873
13

2906
572
4296

34
1873
13

和州舊跡幽考目録

第十七卷宇陀郡

宇陀郡

宇陀山

高倉山付女坂○

水室

男坂○墨坂の事

墨坂神

宇陀邑

血原

訶夫羅前

八咫烏社

秋宮付巡幸○

兩太神宮鎮座の事

神戸

朝原

竹川

室生山

龍穴社

38 0070

鶴山
王事
屏風里
鏡作社 付神階事
鞆人池
宮古杜
坂手池
法貴寺
村屋神社
三宅道

第十八巻城下の郡

大蔵寺 付愛染明
延喜式神名帳
黒田郡
鏡池
法樂寺
坂手
大安寺村
敢宮
神山
延喜式神名帳

和州舊跡幽考第十七巻

宇陀郡

宇陀郡 宇陀又八宇太 延喜式 宇多 倭姫世紀宇

菟田 日本紀 陀 倭名抄

宇陀野

宇陀の町より一里ばかりの東野を過より一里ばかりの東野の中に伊勢へ出るなり宇陀野の中に禁野あり

推古天皇十九年の月の日より菟田野に薬猟を菟田野の暁と時とのあけぬまりてそれより佐倉をうつりて法貴寺の鐘をつくのきねの文四より冠を着しを

乃〻鬢結さて四位ハ金をとりかうむり五位ハ
豹尾六位ハ白丸尾をけりとり 日本紀
▲貞觀二年十一月三日みことのりして源朝臣
融ハ大和國宇陀野を給ひしより猟しなそ
び給ふとあり 三代実録

草根 宇陀の野乃秋萩をかりそめ
日の新乃ふくまぎれにかりまくるかな 宇陀の野 撰集抄

宇太山

皇極天皇三年菟田郡ハ押坂直と云人ありて
童子代いざなひく菟田山乃宮をまけのぼる
雲の中より紫乃菌生ぬ 菟田山乃宮 ときかすあ
まり四町ばかり上ぐよりてぞんくきりもとり
て家よりくれば人毒ありなんと

いひあへりしかども押坂直を童もありあとて
くひのぼりくあがりひとあるくだ又の日を
菌代とりなんと山よりゆ行しかど一本をあらざり
きり菌をとりしかども毒もなく毒もあり或人
いく〻修ふ草をとりてこれ菌とのみ云り
日本紀

氷室

氷室の絵とてひとつ氷室を御ゆ
大和國より世奈ケ原乃氷室ありとや氷
室の歌ハ
とりく修ふどもを雪ふくを
草根 とりざまバ余ハ器して実よのみあるん
歌まそ添れなや通ふ乃宇陀の氷室よりる山風

高倉山 付 女坂男坂墨坂

高倉山宇陀の郡ハ二三ケ所あり然ども

女坂男坂墨坂乃名をうぶるあるも先伊
賀見村をゝよりて國見山とゝかあり又
勢州と宇陀の郡ゝとの間國見山とゝか
あり後の人さゝぐるをうるへし
神武天皇菟田乃高倉山に登りて城中を
ゝんそなりゝ給ふ時國見岳の上に八十梟帥あ
りて天皇より敵ゝ
男の軍と墨坂より戦ひ女坂より女乃軍男坂より
皇ゝ乃八十梟帥を殺して死骸を埋て天
坂の名ゝこれよりゝまりゝり日本紀
墨坂神　あしゝた
崇神天皇九年四月一日墨
坂の神を祭らゝを給ふより日本紀よりゝ

宇陀郡

宇陀乃町より西の方二里俗に宇賀志村
とゝかゝ山徒を沖退乃あとゝかゝ
神武天皇國ゝをとゝかゝ
ひゝんと山路よりむゝ給ふと
めゝり宮より天照太神の出美のをゝ八乃まゝより八
咫烏来りそれゝ行方よりゝゝ進み
ゝ海ゝ走ゝ海より海ゝ
ひゝその西を菟田の宮邑と名づけゝりゝ
舊事紀日本紀等よりあり
血原　あしゝた
神武天皇みことのりして天孫兄猾および弟猾
菟田縣より海ゝとめ給ひゝゝどを

猾八束脛、仕祀兎猾八束脛よ、まつらひ従ふ者ども
ならべ攻ふ、ことごとくに攻滅ぼしてい
ざなひ、ことごとくふるひ命をとるひ
ぞ、其屍を斬てぎり其血のながれ
ぬきバそこ流れ流れ、兎田の血原といふく
ハ舊事紀日本紀ありあり

訶夫羅前 ほこらぶ

うの兎宇迦斯鳴鏑を持て待ちけり使八咫
を射たりしかどその鳴鏑乃落る地を訶夫羅
前といへり古事紀

八咫烏社

兎田の町より一里良俗ハ鷲塚村也
ふ一むらのふるやしろ社ふ一里

て礎のこるより
八咫烏神社延喜式 慶雲二年九月大倭国宇陀
郡ふ社を祀りたまふ後日本紀 抑八咫烏ハ神兎命
遠津兎余化して大烏乃ごとくけり祀神
天皇を道引中列よ入まれ其功ありみのりぞ
とくふとあたく賞し給ひさ八咫烏の名号
ようちで祀りし新撰氏々録 姓八咫烏ハ神皇産霊の
てまつる祀元集

秋宮 対集 延喜

りハ明山とくく宇陀の町乃東よ城あ
ひ石といふあり明秋よ宮
しこれりりや延喜宮ハ山辺といふ
ま延喜村といふ天照

太神の御鎮座所といへり山田より山邊
の赤人乃石塔あり
宇多の秋宮ハ是天照太神豊鋤入姫命を此地に代
とゝまる也後ひくく此鎮座所をうづまつり後
人王十代崇神天皇六十年豊鋤入姫命我
日迹ぬと申紀に時姫ゆて倭姫命を此
地代とゝのゝめ是より倭姫命天照太神を載
をゝ輿にうつし後伊勢波多の宮室基本紀條脩それより伊賀
國淡海國尾張國伊勢國志摩の野代の宮同阿佐加
藤方所櫛宮同飯野の宮同伊蘇宮同御鎮
坐所〻〻て富仁天皇廿六年十月より度遍立
寸鈴川上より祠なるゝ〻〻ハ倭姫世紀にあり

泊瀬朝倉宮雄略天皇の御宇廿二年七月止由
氣皇太神但波國丹後の宮より遷り給ひ
倭國宇太の宮より此一宿まゝして伊賀國六穂
宮より此二宿いまゝしてそれより往々龍宮より
〻〻所り給ひて九月小伊勢國山田原の新
殿より遷めたまひ鎮坐本紀より〻〻あり

神戸

當世宇陀の所より四所所押の方より俗小
皇太神此鎮座乃宮ゝそれ社あり是而
の名代神戸といへり
天照太神宇陀乃秋宮より四ところ所いそひまる乃
時倭國造宋女香刀比賣比乃御田を奉れ
る倭姫世紀是宇陀の神戸あり此而その田乃

神武天皇兎田乃朝原而天下を平給ひ
しゑの乃ぶちひとりあり山平らかにハ芳野丹生
の神社乃西よりあらん

竹川

西ぶちぐらべ河内西と云云但大和国
宇陀の郡より竹川の流あるよし舊記
乃ぶくり河海抄一往寛よりあらん
ぶちけうハのちうちいでーひとゑーよりぐ源
氏物語抄ともあり
河海抄第七のあらく河ハ竹川乃渕のみぎりもあらん

室生山寺領三十八石

宇陀の町より四里ばかり艮

室生山延喜式三代実録或ハ一山或面一山
と号す寺号ハ室生寺日域無双乃真言の勝
地よりて弘法大師乃住
ちんぐうあり三国相承の重宝と称め本尊海
會彼神よ安置し奉り藥よ仏蓋あり佛隆寺
と号ス行記抄山ハ枕松筆を作ゝて書天
ぢうり巖石樹林ハ流れて馬蹄とゝぐ
き蓮よめぐれ川浪ハ春乃岩乃ぐるまよ
ゝるゝぐ流ハ秋の雨乃如
那とあやゝ橋をふゝめけば盧山乃さ
びぢを想ひ山路をとゝらのぐ鶏足の
雲川をきゝるぐうゝやとゝそ知ひやゝれけ
き弘法大師乃住坊ハ慈尊院ハ杉やゝ

ぎて人もあり護摩佛を造れり僧侶ハ苦のをむして風こゑやどりて伽藍を造へて
霧たゝぎく室鐸響あり荒沢斯る靈區なきハ世の人女人の高野ともいへり
▲寺領ハ奥福寺の御朱印地あきハ住持職ハ西大寺招提寺戒壇院乃僧家の中
よりえらび奥福寺の僧侶二人一蓮乃徒番をせらるゝなり

龍穴社

室生山室生寺乃鎮守ゆへ穢ハ沐
浴穴社の元来ハ釈乃慶忍室生山よりとゞ
ゆ年一千日黎河橋をとゝのへ容儀體佩
冥羅なる女乃頼ふくうして慶忍よりて

即弘成佛乃市明をたゞけて生りべよりて
あげく慶忍あやしやとハおりひるゞう雅人よ
いまするぞや市明をたゝるよハ和をたゝばは
あゝといひるり女わきも是善女沐浴なり
たゝありて沐浴ふくうべいとゝるこゝ
けれ乃ゝて秋乃去七佛僧愛皆ゝくこそ佛
きとていとこうとゞりをり善ゝ乃如今
ハそや龍ゝらをんをよゞろあゝハさねやと
いゝりゝべいとやもゝりをり西さゝ西ゝ
るべいゝどいひるゞう宣中よのぼり雲ちゞ
きゝり衣の乃ゝ乃ゝ指をあゝゝよ飛の髪さ
丈余ゆてゝ女の光あり釈是より佛法擢
護乃弥神ゝとてあゝよ祠ゝるとぞ

日本の室生毛桃本あけと秋大臣とあるべしやうべ

鶴山

紀伊國玉田郡又大和國宇太郡の西流

あり 酉曼陀

鶴山紫雲菴羅抑ハ中抑乃法如尼乃閑院の北る

尼それより法入て尼の住院として勤行今

よ法ど抑中抑ハ横佩右大臣豊成乃息女

ありしゞ継母の逸よりてひぐり山よりて

所生き歯岩よりて命を薬乃窮よあり

そひおりしゞ父大臣鶴山よ狩しあり給

よそ石意封面して右ひよりひね更よ

厭離獄土乃心法やら弊給ひ當麻寺の實

懺法師を姉ちてうとおろ義心尼とり孔

又改名して法如尼と変よいりとひとびて

紫雲菴と号し俠求浄土乃外ハ心よ西方

法よ浄土曼陀羅とえく往生の素懐とりけ

所生ありり 酉曼陀羅抑

大藏寺

宇陀乃町より巽一里ばかり櫟よ栗野

と云所ありそれより坂よのぼる事八町

雲信山醫王院大藏寺ハ本尊薬師如来

盛鶴ハ上宮太子乃西菓創其後役小角練行

の地とそこ法ハ法大炉法成天皇

乃勅とうを堂宇と建立そこ法成天

皇の震業乃大藏寺の額今よあり

▲靈窟あるべ乃中よ小佛乃愛染明王長二

阿弥陀如来より弘法大師に付属あり山
愛染の仏敷より月乃上弦より八御胸より上ハ青
色乃舎利を現じ下弦より御腰より下ハ紫
絵ハ切りのうりて其数不定なり山号像の事
を密宗悟学乃者法師より密宗
書より乃〳〵伝りて一宗伝授の事より伝りとくや
立指量乃愛染を中とくるれ〳〵なり書
ちうげ〳〵べ冠衆を

宇陀郡神名帳十七座延喜式

宇陀水分神社　阿紀神社
門僕神社　丹生神社
御杖神社　椋下神社
高龍神社二座　八迦鳥神社

味坂比賣命神社　御井神社
岡田小桑命神社　神御子義牟須比命神社
楊寶神社　剣主神社
室生龍穴神社　都賀那木神社

和州舊跡幽考第十七卷終

和州舊跡幽考第十八卷

城下郡

屏風の里　黒田村ハ十四五町

聖徳太子鵤宮より橋の宮よりこゝまで行幸の道遠しとあらくよりて紀道をひらき直道遠路とし給ふ平路めて借御をなるよ
ひらきよ屏風をたてしらりさあり　玉林抄

黒田郡

面世黒田村乃至紀ありよ宮古村こゝあ

乃是なり

黒田郡ハ孝安天皇御宇百二十年正月始
なり給ひ〳〵こゝ十二月人王七代孝靈天皇黒
田よりやうやう行給ひ〳〵廬戸宮こゝ日本紀

延喜七年まて元一千九百五十二年

鏡作社　八尾村よりあり

境化社二座一座ハ鏡作麻氣の神社神ハ天棚戸命なり一座ハ伊勢の神社神ハ石凝姥命なり兼倶石凝姥命ハ天棚戸命乃也なり

柳石凝姥神ハ天照太神岩戸よりせ給ふ時天香山乃榊をとりて日像乃境式を給ひ

神社　古諸拾遺

▲神階ハ貞観元年正月廿七日従五位上　三代実録

そ後の位をさらべ

鏡池

名井乃内よりあり位よ神代乃境を給ひ

時乃水よ伊勢よりの

みなびの境の池よりむ[illegible]

韓人池

二階堂乃南八尾村のゆよ唐子村とゝあり

韓人乃池を應神天皇七年九月高麗人百済人新羅の人等よ始て[illegible]

韓人乃池と号を天皇ハ宮市郡よ都せ給ひ輕酒乃明宮よ坐ける　日本紀

宝七年まて元一千四百三年う　延新六拾

[illegible]内の内乃宮の首より[illegible]韓人の池

法樂寺　寺領六石四斗余真言宗

黒田村乃あらび曽我川乃ひゞ

法乗寺本尊ハ勝軍地蔵尊乃秘佛也ハ

孝靈天皇の陵池にして聖徳太子の開基と
いふなり今俗にいふ孝靈天皇の
陵は葛下郡所位とあるのよし延喜式に
なしなしもの孝靈天皇の皇居の
跡なりや

宮古森

大和國類聚三編山のもとの西に宮古村
といふあり三編の遺跡
類聚三編山のもとにて宮古森のあるなり
万葉みくまを横ぎりおて水蓼穂積よいさ
里香細なる坂門をとおて石ノ上の耳南彼山
よ朝宮よりて吉野へと入ぬ

きばむ

友欽

同
月毛日もうり行もの人に強る三諸の山のふもと宮地
坂手村といふあり山東に蒲津村といふあり
穂積の所言の万葉集にこれとあり行幸とよ城
宮より下津道を強て須加部路よ
坂もむ紀ノ市郡穂積とおて式下郡坂
手よりて芳野に越けるなり其南彼
三諸の山は三編の社なるべし日本紀に大
巳貴号る我三諸山よりくまりなんと宮
しは三編山なり
坂手の池

景行天皇五十七年九月坂手乃池をつゝみ堤乃上より行をうへしとあり日本紀

大安寺村

大安寺ハ奈良乃大安寺資財帳よりしるし十六處乃房堂の内より式下郡村屋とのをしるしるハ此所なり

法貴寺　寺領十七石五斗

法貴寺実相院ハ聖徳太子の御建立なり裏破して一宇ゝまり本尊薬師如来八百秋國より来朝とゝ

秋宮

法貴寺のうしろ禿倉あり傍より立五中将伊勢秋宮といひ伝へ

かくしまをへ長谷川當麻より守護させ給ふ

ゝり山名あり山をあり山へ入り山をあり

太田命記曰倭笠縫邑より磯城乃瑞籠

ゝる若あり笠縫邑ゝんう秋宮

乃ゝあれ　本紀ハ泊瀬秋宮とあり此時乃野の

文ゝりやあり　ゝんうあ

笠縫邑ハ崇神天皇乃此時神代より代い

十代ゝ八六百余歳よりて神璽鏡

此殿とゝ　神威とゝ　御伝六ゝ乃

ゝ神代乃ゝ　石凝姥神乃神ゝ

をめて燒ぜらるゝ所の天目一箇乃神乃物ゝをめて劔を作りしめ大和乃宇陀乃郡にて山女種をうゝたしめあり高き紀藏乃高ゝとして同殿に安置給ふ

日本紀正統記

神璽鏡劔是あり名ぜけて内侍所とぞいふ

古語拾遺

抜神代ありたゝりし寶燒ぶるめび璽劔をバ皇女豐鋤入姫命に授て大倭笠縫乃邑とゝふ所に神籬を建て天照太神をあがめまつる是ありして神宮の始別まるゝ紀神乃をへありて豐鋤入姫命神牀を以戴てとゝろくをめり張ひ

正統記

笠縫邑よまつるゆゑ邑に宮人をゝる夜もすがら酒のこゝろふ歌

宮人乃袖ふるまでふかしゆ紀乃月

もらすゝ

是ぞ今宵ゝふく

宮人乃袖ふるまでふかしゆ紀乃月

も袖ふるゝ所にあるもひさかたしゆ紀乃月

古語拾遺

村屋神社

宿よりの屋乃社とゝゝ作ゝ入ゝ

森屋乃ゝ乃西頭乃地にあれはそれ

より森屋やゝとゝあるゝめ大安吉

資賊帳とゝゝよは造村屋村やゝ作ゝ

牧野よりの屋乃北乃辰乃方より

五十町ばかりゝゝて大井乃井をゝ

ゝあり

着陵あり

村屋坐弥富都比賣神社延喜式神名帳の神名
霊剣よりくに降まします乃剣の事ハ日本紀ハ
ふつのみたまと天武天皇と大伴
氏の合戦ハ天皇方乃将軍吹負乃陣ハ
天皇方の将軍吹負ハ親當中道をとおせとも
ハ皇方乃将犬養連五十君中道をとおり
ひろく村屋より陣をとる別将盧井造鯨二百
乃精兵を率して将軍吹負乃陣をぞ
うちかこむ吹負小勢なりて防ぐよりて
けり而て大井寺乃住人徳麻呂等の人先陣
より進て矢ぎりをそろへ遠間なる射をる
よりて鯨ハ進こうまりけり又今日上道の
箸陵乃合戦皇方乃軍大ハ破しうハ

天皇方乃兵庫ハ鯨ヶ軍乃後をそへぐ
てをる程ハ鯨ヶ軍勢ハ白
よりて落行をうが堅田ハ馬ハ水入りて
おどもうるハぶりをるてハ将軍吹負あ乃白
馬ハ奇る武者ハ盧井鯨とうをそ討ま
ども下知をうまこうれバ甲斐乃勇士とも
急ハ馳をるをとうくに鯨馬ハ難をしをう
あてく堅田をのがれてそ落うをるそれより
吹負ハ本陣ハこうそうきうれ見うり先金
剛井乃合戦乃時高市郡大領鯨主許梅
俄にとりて初ハ三日を待て後神
着てうもう我ハうる市社乃事代主神又
手綾社乃生霊神ありし神武天皇乃陵ハ

馬種々乃器械なりとて天皇乃御ものゝ
ゐん又西乃道ゝ獻らせたまふるんつ
あるべしとて多醸こゝ有あるべ梅を
勅使ゝてゝ乃陵とまつりるゝ
乃社二社乃神をまつり給ふ後壹伎史韓
大坂二上嶺禁を給ふ貢たまふ時の人二社
の神乃をゝへ是ゝとゝひあへりをる又村
屋の神も神人ゝ著て吾社乃中道ゝ獻き
うりるんゝ出せばハあるべゝとゝ乃ゝ自
を給ふて廬舟縣中道ゝりゝ出せる時の
人神のをゝへ乃中訓ゝあへりとそ感じる
口宮を祭ゝ祭ゝ多べ則三神ゝ位階と贈給
ひゝゝり給ゝ軍ゝ利をゝく不破ゝて

大倭の皇子乃頭ゝ給ふゝり日本紀ゝゝ
神山西ゝゝゝゝ藤生ゝり
天平宝字二年城下郡大和神山ゝ藤生ゝり
そ乃根ゝ文十六字の出ゝひありその文字ハ
壬大那弁天下の人此内任大平の臣尋昊年一日
本紀

三宅道

三宅郷ハ城下郡体ゝゝ西ゝ
る人もゝ三宅ハ官乃穀倉ゝ 釈日本紀
万葉
父母ゝ去ゝ妻ゝ子ゝ三宅道乃美野ゝ草ゝ葉つゝ
目
打久津乃三宅乃石ゝ
新六帖
打久津の三宅乃野道乃新葉落ゝ道をゝ
城下の郡神 長帳十七座 延喜式

村屋坐弥富都比賣神社
也坐朝霧黄幡比賣神社
鏡作坐天照御魂神社
子代神社
倭恩智神社
比賣久波神社
糸井神社
鏡作伊多神社
久須々岐神社
岐多志太神社二座
服部神社二座
屬都神社
村屋神社二座
鏡作麻氣神社